

第1回 まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会 議事要旨

1. 日時

令和5年7月24日（月）午前10時から午前12時まで

2. 場所

中央合同庁舎3号館6階都市局局議室

3. 出席委員（※はWEB参加）

座長 岸井 隆幸	一般財団法人計量計画研究所 代表理事
大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授
小早川 悟	日本大学 理工学部 交通システム工学科 教授
小嶋 文※	埼玉大学 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 准教授

（駐車場関係団体）

善本 信之	一般社団法人 全日本駐車協会 専務理事
岡部 達郎	公益社団法人 立体駐車場工業会 事務局長
亀村 幸泰※	一般社団法人 日本自走式駐車場工業会 専務理事

（地方公共団体）

井川 武史	東京都 都市整備局 交通政策担当部長
近藤 陽介※	金沢市 都市政策局 担当局長（兼）交通政策課長
津島 秀郎※	神戸市 都市局 都心再整備本部 事業推進担当部長
吉田 哲雄※	和歌山市 都市建設局 都市計画部長

4. 議事

（1）駐車場施策の最近の動向について

事務局より資料1を説明

（2）まちづくりと連携した駐車場運営に関する情報提供

パーク24株式会社モビリティ研究所フェロー 間地信夫氏より情報提供

（3）令和5年度の検討の進め方について

事務局より資料2を説明

（4）意見交換

5. 主な発言など

【令和5年度の検討の進め方について】

(全体について)

- 駐車場の議論と歩行者を中心とした街路空間の再構築・利活用の議論は極めて関係が深い。2つのWGにおいては、「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に関連する制度も含めて「新しい制度をこう活用できる」という事も示しながら、論点を具体化できるとよい。
- 様々なモビリティの都市交通政策上の位置づけについても、自治体でも積極的に議論し、整理していくことが重要と感じた。

(需給マネジメントWGについて)

- 「まちづくりと連携した駐車場施策ガイドライン」を具体的に現場で使っていくときに、どういうことを考えればよいか、について数字を見ながら検討していきたい。
- 検討にあたっては、データが重要。個々の建物ごとに駐車場の稼働率がわかっても、エリアでの稼働率を把握するのは大変。
- 駐車場の需要予測をどのようにしていけばよいかについても論点に含まれるとよいのではないか。どのくらいの原単位が適切なのか、時間軸に応じた駐車需要も含め、それを基に検討していくことが重要と感じた。
- 都市部では新規に駐車場を配置することが難しいので、既存の駐車場の集約再配置等をどのように誘導していくか、という発想も大切ではないか。
- まちの将来像とも連携し、エリア特性に応じた駐車場についてパターン化して整理できるとよい。
- 観光バスの対策で、道路上だけで対応することができないので、民間を主体とした運営の連携というところで苦慮している。荷さき車両の対策も含め、WGの中で議論したい。

(施設デザインWGについて)

- 施設のことだけ考えても課題は解決できないので、施設周辺との関係性も考えていきたい。
- まちなかに訪れた方々を「繋ぐ場所」としての駐車場が重要。新たなモビリティやシェアサイクルと車とを繋ぎ、車で来られた方が、そこを拠点にしてまちなかを回遊する等、駐車場の新たな役割、仕組み、仕掛けを検討していきたい。乗り降りできる場所がハブになっていくような発想があれば、都市として駐車場を活用していくことに踏み込んで議論ができるのではないか。
- 施設のデザインについて、安全に使えるのはもちろん、安心して使ってもらえる素敵な駐車場をつくっていくことで、「街の中心部から少し外れたところにあるけど、そこに

停めてまちなかに歩いていこう」と思ってもらえるのではないか。

○ODXにより新たな情報提供が可能になる中で、どのタイミングで情報を提供すると望ましい行動の変化につながるのか、どう伝えればわかりやすいのかについても検討したい。

○多様なモビリティの中では小型化が注目されている一方で、大型化した一般車も発売されるようになってきている。駐車マスのあり方はどこかで議論しないといけない。

○自動バレーパーキングに関して、今後は、安心して乗り降りができるスペースも重要になると考えている。将来のこととして議論して、最先端の駐車場のあり方を示さないといけない。

○EV自動車では新たな課題も生じている。例えば、航続距離を長くするためにバッテリーを大きくして、車重が増加してきており、機械式駐車場の重量制限を超えてしまう場合がある。また、充電の給電口が大きく、給電口を開けると機械式駐車場の駐車マスに収まらないため、駐車しながら給電できない場合がある。

以上